

<クラブ奉仕委員長会議報告>

佐々木会員

去る11月16日、クラブ奉仕委員長会議が横浜のソシア21であり、白井クラブ奉仕委員長の代わりに参加してきましたのでご報告させていただきます。担当パストガバナー鈴木清次様より昔の資料の発表がありました。まずロータリークラブとはどういうものかが書いてあるところを読みます。

「人間は孤独の生活ができない動物です。人と人との関係が起これば、自分の都合ばかりを考えているわけにはいきません。各自が他人のために役立つということを考えなければなりません。人のために役立つということとは、英語で言う“サービス”。ロータリーは“サービス”をもって人間活動の根本観念とする“運動”です。この運動を達成する目的をもって実業家が集まり、自己の業務を通じて“サービス”を実行しようと組織された団体がロータリークラブである」。

次に“サービス”を具体的に4項に分けて申し上げます。

①ロータリーの主義精神を実行するためには団体の組織を堅固にし、活動力を盛んにすることが必要である。この目的を達するための努力が一つのサービスであり、例えば1業1人制や毎週例会を開く、出席を厳しく言うことはいずれも組織または活動方法だが、要するに組織を堅固にして活動を有効にする目的にほかならない。これをクラブサービスという。これはクラブ奉仕の意味ではないかと思えます。

②各自の業務を通じて社会人類にサービスしようとすることを“バケーションサービス”というが、これがロータリーの根本である。また、事業が社会人類に対し、サービスにならないものは恐らくその事業は成立しない。サービスになればなるほどその事業は繁盛するが、一般の人は利益第一主義で、サービスと利益とが衝突するよう見える場合はサービスを捨てて利益に走る傾向にある。品物を販売するにあたって、世間をあざむくこと、また競争者を不当に傷つける宣伝広告を慎み、フェアプレーでいくこともまたサービスである。これは職業奉仕に関係するのではないかと思えます。

③ロータリアンはサービスの精神を業務上において実行するばかりでなく、私生活にも社会生活にも応用せねばならない。このサービスを“コミュニティーサービス”という。即ちロータリアンはその家族に対しても近所の者に対しても、また自分の住む地域社会に対しても何らかの役立つ事を心がけるべきである。各人がこのような心がけを有するだけでも社会は明るくなり、各国のクラブはその国情に応じて各々のサービスを提供する。将来の社会を改善するために子どもの成育において協力する者、不幸な身体障害児を支援する者等、世の中にロータリー精神を普及して、この世を春風駘蕩、住みよい世の中にしていく努力がこのサービスの長である。これは社会奉仕ではないでしょうか。

④国際間のサービスを“インターナショナルサービス”と称す。ロータリークラブは世界各国にあり、いずれも同一組織、同一会則の下に運営されているので、ロータリーの目的達成のためにも世界中のクラブと連絡統制を図ることが肝要。この組織を利用して国際間の平和親善に努力しようとするのがこのインターナショナルサービスの起源である。ロータリアンは人種を問わず、国境の如何を論ぜず、しかもロータリアンたる以上は初対面より一見旧知のごとき交わりえるものである。特にロータリアンは一切政治に触れぬことになっているので、各人協力の可能性が十分にある。

以上、ロータリーの目的の大筋を報告申し上げます。ありがとうございました。

